

平成 27 年 8 月 20 日
独立行政法人国民生活センター

2014 年度の PIO-NET にみる危害・危険情報の概要

この概要は、PIO-NET^(注1)により収集した 2014 年度の「危害・危険情報」^(注2)をまとめたものです。当該情報の詳細については、「消費生活年報 2015」（2015 年 10 月発行予定）に掲載する予定となっています。

2014 年度の傾向と特徴

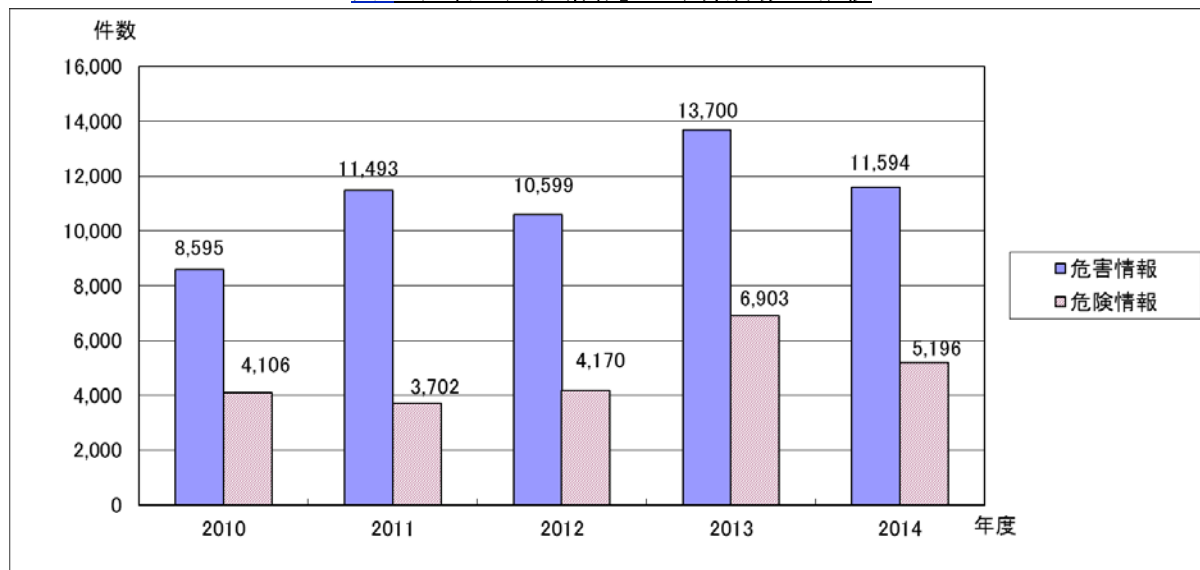
- ・「危害・危険情報」は 16,790 件で、対前年度比で見ると 18.5%減となっています。
- ・「危害情報」は 11,594 件で、上位 3 商品・役務は「化粧品」、「医療サービス」、「エステティックサービス」でした。「危険情報」は 5,196 件で、上位 3 商品・役務は「四輪自動車」、「調理食品」、「菓子類」でした。
- ・「危害情報」の減少については、前年度同様 1 位の「化粧品」が、約 1,100 件減少したことや、前年度 2 位の「調理食品」が約 1,000 件減少したことが大きく影響しています。「化粧品」の減少については薬用化粧品の白斑トラブルに関するものが減少したほか、調理食品については冷凍食品の農薬（マラチオン^(注3)）の混入事案に関するものが減少したことが大きく影響しています。
- ・「危険情報」の約 1,700 件の減少については、前年度 1 位の「調理食品」が、冷凍食品への農薬（マラチオン）混入事案に関するものなどを含め約 2,100 件減少したことが大きく影響しています。

(注 1) PIO-NET（パイオネット：全国消費生活情報ネットワーク・システム）とは、国民生活センターと全国の消費生活センター等をオンラインネットワークで結び、消費生活に関する情報を蓄積しているデータベースのこと。

(注 2) 「危害・危険情報」とは、商品・役務・設備に関連して、身体にけが、病気等の疾病（危害）を受けたという情報（「危害情報」と、危害を受けたわけではないが、そのおそれがある情報（「危険情報」）をあわせたもの。データは、2015 年 5 月末日までの登録分。なお、2007 年度から、国民生活センターで受け付けた「経由相談」は除いている。

(注 3) マラチオンは、有機リン系の殺虫剤であり、中毒症状としては吐き気・おう吐・唾液分泌過多、発汗過多、下痢、腹痛、軽い縮瞳等が知られている。（厚生労働省ホームページ「農薬（マラチオン）を検出した冷凍食品の自主回収について」<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000034127.html> より）

図. 「危害・危険情報」の収集件数の推移



※データは2015年5月末日までの登録分。2007年度から、国民生活センターで受け付けた「経由相談」は除いている。

1. 「危害情報」の概要

2014年度にPIO-NETにより収集した「危害情報」は11,594件でした(2013年度:13,700件)。

(1) 商品等分類別件数

商品等分類別にみると、1位は「保健・福祉サービス」(「医療サービス」、「エステティックサービス」、「美容院」、「歯科治療」など) 3,262件(28.1%)、2位は「保健衛生品」(「化粧品」、「医薬品類」など) 2,136件(18.4%)、3位は「食料品」(「健康食品」、「調理食品」、「飲料」、「菓子類」など) 2,122件(18.3%)、4位は「住居品」(「家具類」、「洗濯用洗剤」、「ふとん類」など) 1,096件(9.5%)、5位は「他のサービス」(「外食」など) 660件(5.7%)でした。(表1)

具体的に商品・役務別にみると、1位は「化粧品」1,227件(10.6%)で、前年度(1位、2,313件)と同じ順位でしたが、自主回収している薬用化粧品の白斑トラブルに関するものが減少したことなどにより、1,086件減少しました。2位は「医療サービス」1,205件(10.4%)で、顔のリフトアップなどの「美容医療」が159件増加したこと、ならびに昨年度、冷凍食品への農薬(マラチオン)混入事案が多く2位だった「調理食品」が1,013件減少したため、順位が上がっています。

3位は、「エステティックサービス」622件(5.4%)、4位は「健康食品」583件(5.0%)、5位は「外食」544件(4.7%)でした。(表2)

表1. 「危害情報」の商品等分類別の上位5位の推移

順位	2012年度 10,599件			2013年度 13,700件			2014年度 11,594件		
	商品等分類	件数	割合(%)	商品等分類	件数	割合(%)	商品等分類	件数	割合(%)
1	保健・福祉サービス	2,844	26.8	保健衛生品	3,271	23.9	保健・福祉サービス	3,262	28.1
2	保健衛生品	2,277	21.5	食料品	3,138	22.9	保健衛生品	2,136	18.4
3	食料品	1,792	16.9	保健・福祉サービス	3,073	22.4	食料品	2,122	18.3
4	住居品	1,002	9.5	住居品	1,306	9.5	住居品	1,096	9.5
5	他のサービス	563	5.3	他のサービス	585	4.3	他のサービス	660	5.7

表 2. 「危害情報」の上位 5 商品・役務の推移

順位	2012年度			2013年度			2014年度		
	商品・役務	件数	割合(%)	商品・役務	件数	割合(%)	商品・役務	件数	割合(%)
1	化粧品	1,405	13.3	化粧品	2,313	16.9	化粧品	1,227	10.6
2	医療サービス	850	8.0	調理食品	1,407	10.3	医療サービス	1,205	10.4
3	エステティックサービス	590	5.6	医療サービス	1,056	7.7	エステティックサービス	622	5.4
4	健康食品	532	5.0	エステティックサービス	661	4.8	健康食品	583	5.0
5	外食	466	4.4	健康食品	655	4.8	外食	544	4.7

(2) 危害内容

1位は、「その他の傷病及び諸症状^(注4)」3,567件(30.8%)でした。「医療サービス」、「歯科治療」、「健康食品」などに関するものが多く、体調がすぐれない、気分が悪い、痛みがあるなどの症状が多くなっています。前年度(2位、3,609件)から42件減少しましたが順位は上がりました。

2位は、「皮膚障害」2,782件(24.0%)で、「化粧品」、「エステティックサービス」、「医療サービス」などに関するものが多くなっています。「化粧品」の1,062件の減少を含め、前年度(1位、4,030件)から1,248件減少しました。

3位は、「消化器障害」1,161件(10.0%)で、「健康食品」、「外食」、「調理食品」、「飲料」などに関するものが多くなっています。前年度(3位、2,015件)と順位は同じですが、「調理食品」が大幅に減少したこともあり、854件減少しました。

4位は、「擦過傷・挫傷・打撲傷」の825件(7.1%)で、「エステティックサービス」、「自転車」などに関するものが多くなっています。前年度(4位、858件)から33件減少していますが、順位は同じです。

5位は、「熱傷」731件(6.3%)で、「エステティックサービス」、「医療サービス」、「外食」、「携帯電話」などに関するものが多くなっています。前年度(5位、765件)から34件減少しました。

(表 3)

(注 4)「その他の傷病及び諸症状」には、脱毛、切れ毛、頭痛、腰痛、発熱、精神不安定等が該当し、根本的な原因が明らかでないものが含まれる。

表 3. 危害内容別上位 5 位の推移

順位	2012年度			2013年度			2014年度		
	危害内容	件数	割合(%)	危害内容	件数	割合(%)	危害内容	件数	割合(%)
1	その他の傷病及び諸症状	3,092	29.2	皮膚障害	4,030	29.4	その他の傷病及び諸症状	3,567	30.8
2	皮膚障害	2,669	25.2	その他の傷病及び諸症状	3,609	26.3	皮膚障害	2,782	24.0
3	消化器障害	1,021	9.6	消化器障害	2,015	14.7	消化器障害	1,161	10.0
4	熱傷	813	7.7	擦過傷・挫傷・打撲傷	858	6.3	擦過傷・挫傷・打撲傷	825	7.1
5	擦過傷・挫傷・打撲傷	691	6.5	熱傷	765	5.6	熱傷	731	6.3

(3) 被害者の年代・性別

危害を受けた被害者の性別は、女性が8,179件(70.5%)、男性が3,155件(27.2%)で、「化粧品」などの件数の減少により、前年度と比べ女性の割合が減少しました。

年代別では、前年度と同じく40歳代が1,949件(16.8%)で最も多く、次いで70歳以上が1,883件(16.2%)となっています。以下、50歳代1,750件(15.1%)、60歳代1,718件(14.8%)、30歳代1,516件(13.1%)、20歳代986件(8.5%)、10歳未満371件(3.2%)、10歳代293件(2.5%)と続いています。また、全ての年代で件数は減少しました。(表 4)

次に、年代別に危害の最も多い商品・役務をみると、10歳未満は「外食」45件、10歳代は「自転車」25件、20歳代は「エステティックサービス」170件、30歳代は「医療サービス」183件、

40歳代も「医療サービス」211件、50歳代は「化粧品」243件、60歳代も「化粧品」300件、70歳以上は「健康食品」230件となっています。

「調理食品」は、前年度はいずれの年代でも上位5位以内でしたが、本年度は10歳未満のみが3位で5位以内となっています。(表5)

表4. 年代別・性別危害件数

年代	男		女		不明		計	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
10歳未満	175	5.5	153	1.9	43	16.5	371	3.2
10歳代	135	4.3	148	1.8	10	3.8	293	2.5
20歳代	210	6.7	774	9.5	2	0.8	986	8.5
30歳代	350	11.1	1,164	14.2	2	0.8	1,516	13.1
40歳代	488	15.5	1,458	17.8	3	1.2	1,949	16.8
50歳代	454	14.4	1,291	15.8	5	1.9	1,750	15.1
60歳代	488	15.5	1,223	15.0	7	2.7	1,718	14.8
70歳以上	527	16.7	1,350	16.5	6	2.3	1,883	16.2
不明	328	10.4	618	7.6	182	70.0	1,128	9.7
合計	3,155	27.2	8,179	70.5	260	2.2	11,594	100.0

※割合は、小数点第2位を四捨五入しており、内訳の数値の合計は100.0%にはなりません。

表5. 年代別の上位5商品・役務

年代	順位	1位	2位	3位	4位	5位
10歳未満		45	30	18	17	15
	外食	菓子類	調理食品	商品一般	家具類	
10歳代		25	23	18	15	14
	自転車	外食	他の野菜・海草加工品	医療サービス	家具類	
20歳代		170	158	72	58	54
	エステティックサービス	医療サービス	外食	化粧品	美容院	
30歳代		183	160	108	99	74
	医療サービス	エステティックサービス	化粧品	外食	美容院	
40歳代		211	197	133	103	78
	医療サービス	化粧品	エステティックサービス	外食	美容院	
50歳代		243	168	84	81	71
	化粧品	医療サービス	エステティックサービス	健康食品	外食	
60歳代		300	127	109	63	58
	化粧品	医療サービス	健康食品	歯科治療	調理食品	
70歳以上		230	212	206	57	56
	健康食品	化粧品	医療サービス	医薬品類	歯科治療	
不明		128	93	58	53	37
	医療サービス	化粧品	外食	調理食品	健康食品	

2. 「危険情報」の概要

2014年度に収集した「危険情報」は5,196件でした（2013年度：6,903件）。

（1）商品等分類別件数

商品等分類別でみると、1位は「住居品」（「電子レンジ類」など）1,641件（31.6%）、2位は「車両・乗り物」（「四輪自動車」、「自転車」など）1,024件（19.7%）、3位は「食料品」（「調理食品」、「菓子類」など）889件（17.1%）、4位は「教養娯楽品」（「携帯電話」など）513件（9.9%）、5位は「土地・建物・設備」（「戸建住宅」など）が208件（4.0%）でした。（表6）

具体的に商品・役務別でみると、1位は「四輪自動車」687件（13.2%）、2位は「調理食品」275件（5.3%）でした。冷凍食品への農薬（マラチオン）混入事案に関するものの大幅な減少により、前年度（1位、2,419件）から2,144件減少しました。3位は「菓子類」152件（2.9%）、4位は「自転車」134件（2.6%）、5位は「電子レンジ類」119件（2.3%）でした。（表7）

表6. 「危険情報」の商品等分類別の上位5位の推移

順位	2012年度			2013年度			2014年度		
	商品等分類	件数	割合(%)	商品等分類	件数	割合(%)	商品等分類	件数	割合(%)
1	住居品	1,374	32.9	食料品	2,924	42.4	住居品	1,641	31.6
2	車両・乗り物	940	22.5	住居品	1,551	22.5	車両・乗り物	1,024	19.7
3	食料品	456	10.9	車両・乗り物	875	12.7	食料品	889	17.1
4	教養娯楽品	421	10.1	教養娯楽品	481	7.0	教養娯楽品	513	9.9
5	保健衛生品	190	4.6	保健衛生品	213	3.1	土地・建物・設備	208	4.0
				土地・建物・設備	213	3.1			

表7. 「危険情報」の上位5商品・役務の推移

順位	2012年度			2013年度			2014年度		
	商品・役務	件数	割合(%)	商品・役務	件数	割合(%)	商品・役務	件数	割合(%)
1	四輪自動車	655	15.7	調理食品	2,419	35.0	四輪自動車	687	13.2
2	調理食品	120	2.9	四輪自動車	563	8.2	調理食品	275	5.3
3	携帯電話	108	2.6	菓子類	155	2.2	菓子類	152	2.9
4	家具類	96	2.3	携帯電話	130	1.9	自転車	134	2.6
5	自動二輪車	93	2.2	自転車	111	1.6	電子レンジ類	119	2.3
	自転車	93	2.2						

（2）危険内容

1位は、「異物の混入」841件（16.2%）で、「調理食品」、「菓子類」などに関するものが増えています。「調理食品」が2,161件減少したこともあり、前年度（1位、2,845件）から2,004件減少しました。

2位は、「機能故障」667件（12.8%）で、「四輪自動車」、「自動二輪車」などに関するものが増えています。前年度（4位、573件）から94件増加し、順位も上がりました。

3位は、「過熱・こげる」589件（11.3%）で、「携帯電話」、「電話関連機器・用品」などに関するものが増えています。前年度（2位、581件）から8件増加していますが、順位は下がりました。

4位は、「発煙・火花」569件（11.0%）で、「電子レンジ類」、「四輪自動車」、「電気掃除機類」などに関するものが増えています。「室内照明器具」の6件の減少、「携帯電話」の5件の減少などを含め、前年度（3位、580件）より11件減少し、順位も下がりました。

5位は、「破損・折損」538件（10.4%）で、「自転車」、「家具類」、「四輪自動車」などに関するものが増えています。前年度（5位、482件）から56件増えたものの順位は変わっていません。

ん。(表8)

表8. 危険内容別上位5位の推移

順位	2012年度		2013年度		2014年度				
	危険内容	件数	割合(%)	危険内容	件数	割合(%)	危険内容	件数	割合(%)
1	機能故障	611	14.7	異物の混入	2,845	41.2	異物の混入	841	16.2
2	発煙・火花	499	12.0	過熱・こげる	581	8.4	機能故障	667	12.8
3	異物の混入	481	11.5	発煙・火花	580	8.4	過熱・こげる	589	11.3
4	破損・折損	455	10.9	機能故障	573	8.3	発煙・火花	569	11.0
5	過熱・こげる	451	10.8	破損・折損	482	7.0	破損・折損	538	10.4

○情報提供先

消費者庁 消費者教育・地方協力課

消費者庁 消費者安全課

内閣府 消費者委員会事務局

(本件問い合わせ先)

商品テスト部：042-758-3165

別 添

<参考資料 上位3商品・役務の概要>

1. 「危害情報」

①化粧品 (1,227件)

「化粧品」は1,227件で、全体に占める割合は10.6%となっており、前年度(1位、2,313件)から1,086件減少しました。

性別では、女性が1,105件(90.1%)と9割以上を占めています。年代別では、60歳代が300件(24.4%)で最も多く、次いで50歳代の243件(19.8%)、70歳以上212件(17.3%)の順となっています。

「化粧品」の内訳をみると、「基礎化粧品(全般)」187件(15.2%)と「化粧水」140件(11.4%)、「化粧クリーム」133件(10.8%)、「乳液」100件(8.1%)で45.6%を占めています。危害内容は、「皮膚障害」が1,060件(86.4%)と全体の9割弱を占め、次いで「その他の傷病及び諸症状」119件(9.7%)、「感覚機能の低下」12件(1.0%)、「呼吸器障害」11件(0.9%)の順となっています。

<事例>

- ・通販で化粧水を2本買って昨夜使用した。今朝顔全体が腫れて熱を持ち、真っ赤になって目も開けられないほどだ(70歳以上・女性)。
- ・サンプルでもらったリキッドファンデーションで顔が腫れた。まだ病院には行っていないが、だんだんひどくなる(40歳代・女性)。

②医療サービス (1,205件)

「医療サービス」は1,205件で、全体に占める割合は10.4%となっており、前年度(3位、1,056件)から149件増加しました。

性別では、女性が936件(77.7%)、男性が247件(20.5%)となっています。年代別では、40歳代が211件(17.5%)で最も多く、次いで70歳以上が206件(17.1%)、30歳代183件(15.2%)の順となっています。

「医療サービス」の内容をみると、「美容医療」が626件(52.0%)を占めています。危害内容は、「その他の傷病及び諸症状」653件(54.2%)が最も多く、次いで「皮膚障害」242件(20.1%)、「熱傷」70件(5.8%)、「感覚機能の低下」58件(4.8%)の順となっています。

<事例>

- ・10年来通っている美容外科で糸による顔のリフトアップ術を受けた。後遺症と思われる痛みが残っており納得できない(50歳代・女性)。
- ・先月美容外科で目の下のまぶたのたるみを治す手術を受けた後、痛み、腫れ、目の赤みが治まらず、たるみもまたすぐに戻り不満(50歳代・女性)。

③エステティックサービス (622件)

「エステティックサービス」は622件で、全体に占める割合は5.4%となっており、前年度(4位、661件)から件数は39件減少したものの、順位は上がりました。

性別では、女性が595件(95.7%)と大半を占めており、年代別では、20歳代が170件(27.3%)

で最も多く、次いで、30歳代 160件 (25.7%)、40歳代 133件 (21.4%) の順となっています。

「エステティックサービス」の内訳をみると、「美顔エステ」が 179件 (28.8%) で最も多く、次いで「痩身^{そうしん}エステ」143件 (23.0%)、「脱毛エステ」142件 (22.8%) となっています。

危害内容は、「皮膚障害」が 255件 (41.0%) と約4割を占め、次いで、「その他傷病及び諸症状」127件 (20.4%)、「熱傷」89件 (14.3%)、「擦過傷・挫傷・打撲傷」76件 (12.2%) の順となっています。

<事例>

- ・ハーブのトリートメントで角質を取り、肌をきれいにするエステを行うと、顔中にニキビができて4カ月も治らず (20歳代・女性)。
- ・エステで痩身の施術を受けたら腕が2倍に腫れた。皮膚がたるんで痣^{あざ}になっている (20歳代・女性)。

2. 「危険情報」

①四輪自動車 (687件)

「四輪自動車」は 687件で、全体に占める割合は、13.2%となっており、前年度 (2位、563件) から 124件増加し、順位も上がりました。

「四輪自動車」の内訳をみると、「普通・小型自動車」482件 (70.2%) が最も多く、次いで「軽自動車」174件 (25.3%) となっています。危険内容は、「機能故障」437件 (63.6%) が最も多く、次いで「破損・折損」50件 (7.3%)、「発煙・火花」44件 (6.4%) の順となっています。

<事例>

- ・新車で自動車道を走行中、渋滞に巻き込まれ前の車に追突。自動ブレーキシステムが作動しなかったことが原因と思う。
- ・走行中にABSランプが点灯し、すぐにブレーキが利かなくなり、ハンドブレーキで何とか止まった。

②調理食品 (275件)

「調理食品」は 275件で、全体に占める割合は 5.3%となっており、前年度 (1位、2,419件) から 2,144件減少しました。

「調理食品」の内訳をみると、「弁当」63件 (22.9%) が最も多く、次いで、チキンナゲット、総菜などの「他の調理食品」62件 (22.5%)、「冷凍調理食品」50件 (18.2%)、「調理パン」29件 (10.5%)、「フライ類」21件 (7.6%) と続いています。危険内容は、「異物の混入」の 228件 (82.9%) がほとんどを占めています。

<事例>

- ・調理済み焼き魚を購入したが、中に釣り針が入っていた。
- ・チーズバーガーを店舗で購入して自宅へ持ち帰り子供が食べた。味がおかしいと言うので半分に切ってみるとパテが半生だった。

③菓子類（152件）

「菓子類」は152件で、全体に占める割合は、2.9%となっており、前年度（3位、155件）から3件減少しました。

「菓子類」の内訳をみると、「他の和生菓子」17件（11.2%）が最も多く、次いで「他の菓子類」が15件（9.9%）、「まんじゅう」と「チョコレート」が14件（9.2%）と続いています。危険内容では、「異物の混入」113件（74.3%）が最も多くみられました。

<事例>

- ・朝市で、こしあんをやわらかい餅で包んだ地域独自の大福を買った。夜、娘が食べたら、小石が入っていた。
- ・コンビニでグミを買い、食べたら中からねじが出てきた。